

ヒトリンパ球培養用培地

KBM 501 & 502/502B

本製品は原薬等登録原簿及びFDA ドラッグマスターファイルに登録されています。

用途

- KBM 501** : 本製品は、ヒト末梢血リンパ球の活性化培養に使用します。
(組換え型ヒトインターロイキン-2: 1750JRU/mL 含有)
- KBM 502** : あらかじめKBM 501を用いて活性化したヒト末梢血リンパ球の拡大培養に使用します。
- KBM 502B** : コンタミネーション防止のため、バッグ入りの本培地 (KBM 502B) を使用したバッグ培養をお勧めします。
(組換え型ヒトインターロイキン-2: 175JRU/mL 含有)

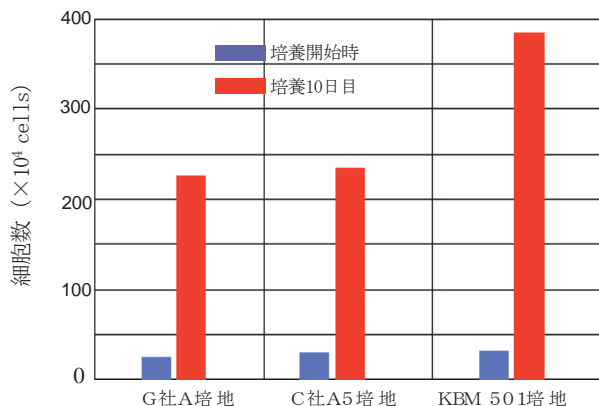
特長

- ヒト血清アルブミン、ヒトトランスフェリン、組換え型ヒトインスリン、組換え型ヒトインターロイキン-2 以外のタンパク質は添加されていません。
- 緩衝能を強化していますのでpHの変動を最小限に抑えられます。
- 抗生物質として硫酸カナマイシンを含みます。
- バッグにはガス透過性に優れた素材を使用しています。その安全性及び品質をプラスチック製医薬品容器試験法 (日本薬局方) に基づいて確認しています。
- 活性化培養の開始時に5~10%の血清 (血漿) を添加してお使いください。拡大培養時には血清 (血漿) の添加を省略できる場合もあります。

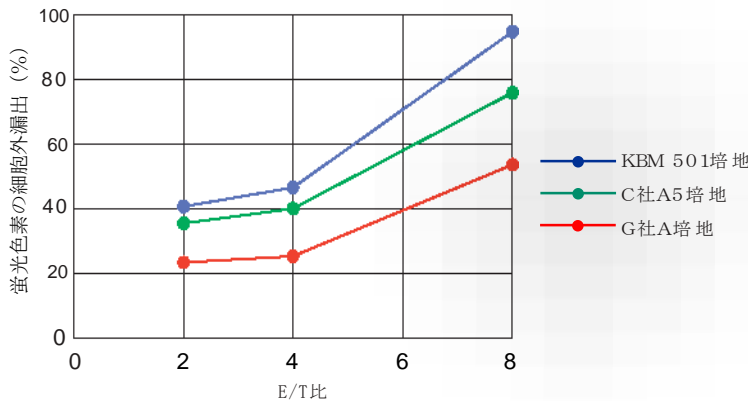


培養例

リンパ球の増殖反応



対K562細胞傷害活性



[培養条件]

細胞: 成人健常者末梢血単核球
 培地: KBM 501 (組換え型ヒトインターロイキン-2: 1750JRU/mL含有) 培養期間を通して非働化済み自己血漿 (1%) を添加
 容器: 抗ヒトCD3抗体固相化12穴培養用プレート
 培養: 2.7×10⁵cells/mLで播種し、37℃・5%炭酸ガス環境下で静置培養増殖に応じて、培養物を血漿・組換え型ヒトインターロイキン-2含有培地で拡大培養
 分析: 培養10日目にフローサイトメトリー法により表面マーカーを解析
 培養10日目にテラスキャン (細胞傷害試験用自動測定装置) を用いて、腫瘍細胞株K562に対する傷害活性を、蛍光色素の細胞外漏出を指標として測定

活性化リンパ球の表面マーカー

表面マーカー	リンパ球集団ゲート後の出現率 (%)		
	KBM 501	G社A培地	C社A5培地
CD3-CD56+	1.74	1.23	0.54
CD3+CD56+	15.52	32.93	35.91
CD3-CD56-	0.93	2.06	0.68
CD3+CD56-	81.81	63.78	62.87

製品コード	製品名	容量	定価	有効期限	保存温度
16025015	KBM 501 (IL-2: 1750JRU/mL)	500 mL	20,000 円	製造後8カ月	2-8℃
16025020	KBM 502 (IL-2: 175JRU/mL)	1000 mL	16,000 円	製造後8カ月	2-8℃
1602502B	KBM 502B (IL-2: 175JRU/mL)	1000 mL	17,500 円	製造後8カ月	2-8℃

* 本製品群は研究用試薬であり、ヒトまたは動物の治療用ではありません。